



組合員活動の
コーナー

「もう原爆は おとしたらあかん」と 思いました

8月8日～9日
7名参加

パルコープでは、被爆体験を風化させず次世代へ伝えるために毎年「ピースツアー」を行っています。原爆が投下されたのは世界でも広島と長崎の2都市だけです。親子や友人でその地を訪ね、見て、聴いて、知る「ピースツアー」。今回はナガサキツアーの報告です。



爆心地近くの吹き飛ばされた浦上天主堂の鐘楼と聖人像が、「被爆のつめあと」として残されています。

9日に参加した平和慰霊祈念式典。長崎に原爆が投下された11時2分には一斉にサイレンと汽笛が鳴り、長崎の町中が鎮魂の静けさに包まれました。長崎においても、原爆によりいかに悲惨な出来事があったかを学

び、平和への想いを新たにしました2日間でした。

長崎での事は学校ではほとんど勉強しないので、広島での事に比べると分からない事が多かったが、色々な物を見たり聞いたりする中で、実は広島ぐらいもしくはそれ以上の悲惨な出来事があったんだと分かり、とても勉強になった。
(酒江夏生さん・16歳)

虹の広場で、被ばくして車掌さんと女の子がなくなった話を聞いてかわいそうだった。平和式典では、被ばく者・遺族の方々の話をきいて「もう原爆はおとしたらあかん」と思いました。
(宮部雄大さん・12歳)

柱にそって各地域で多彩なとりくみが行われています。その様子を紹介していきます。

組合員活動は「食」「平和」「環境」「くらし」の4つの



「アマタケ劇場」の紙芝居も手作りで

20日のイベントは、組合員さんが大阪市内の社会福祉協議会を通じて大阪に避難されている方にも案内し、2家族が参加されました。

宮城県石巻市から避難されてきた阿部さん

家が住めなくなり、大阪に避難されてきました。2人のお子さんは大阪の学校にも慣れてきたようですが、早口の大阪弁はまだ理解しにくいそうです。



阿部清一さん、未来ちゃん、悟くん、由起子さん

福島県南相馬市から避難されてきた中橋さん

住んでいたアパートはなんとか無事でしたが、放射能のこともあり9カ月の娘さんのことが心配でこちらへ避難。おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に、ご主人は地元に残り仕事をされています。「大阪は住みやすくて、来てよかったです。子連れだという人々が声をかけてくれるんですよ」。



中橋希有さん、空奏ちゃん

～岩手 被災地ボランティア活動～



被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を

—NPO遠野まごころネット—

岩手県では避難所は全て閉鎖され、被災者のほとんどの方が仮設住宅に移られました。独り暮らしの方をはじめとした「見守り」活動がますます必要となっています。まごころネットでは、カフェ隊やまけないぞう活動などを組み合わせながら、約100カ所の仮設住宅に対して、地元自治会が主体になるような後方支援活動を進めています。

また、「物資お届け」活動は、私たちの思いと共に「台所セット」を約2500戸の仮設住宅にお届けすることができました。これからは、仕事を失い、車を持たない高齢者世帯など生活弱者の方々に絞った二重物資のお届けを続けていきます。

パルコープの職員ボランティアは「被災者に寄り添い、絆をつなげることを大切にして支援活動を続けています。」

(まごころネットに常駐する事務局の林さんより)



チャリティーイベント

被災地に届けたい! わたしたちの想い

～パルコープにみんなの力をよせて～

「被災地を応援したいね」と、4月に続いて組合員さんの持ち寄りで開催されたチャリティーイベント。この夏休みに2日間開催されました。チケット販売・募金合わせで集まった20万4,609円は遠野まごころネット募金として、遠野に送られます。

ゴスペルコンサート



8月26日 北区区センター

被災地はほんとうに大変ですね。同じように小さいお子さんがいる家庭はどうされているのかと思うと、心配です…

藤川昌美さんと知歩ちゃん(1歳)。

会場には20種類以上の手作りゲームが並び、活動委員さんのお子さんも大活躍。無洗米いれて「こ」をおいさりにしたり、茨城県でんでん俱樂部のなすを漬漬けにした復興応援商品コーナーでは、生産者の方も頑張っておられるのでぜひ利用してくださいねと試食をおすすめしていました。



絵本読みきかせ

8月20日 阿倍野組合員会館

4月に行われた初回に続きさらさら工夫を凝らして開催。バザーやゲームの他に、「若手鳴鶴セット」の物語を大型紙芝居で紹介する。アマタケ劇場、被災地に想いを届けようとお会場みんなで歌ったゴスペルコンサートがありました。復興応援商品コーナーでは阿部善商店(工場が宮城県塩釜市のねり天セツトなど)、がんばろう東日本の商品が紹介されました。

このスープ利用していますよ。すこしでも応援したいですね



食べ物コーナー

応援商品コーナーで八戸東洋の「CO-OPたまごスープ」を試食されていた湯浅加奈子さんと栄輝くん(3歳)。



〈第2期第1陣〉8月20日～26日

支所職員など7名(内よどがわ生協の方1名)

湯浅さん(西成支所の個配担当)、宮内さん(人事総務部)、坂口さん(商品部)、長壁さん(くらしと協同研究所出向)、山本さん(よどがわ生協)、中井さん、佐藤さん



佐藤さん(鶴見支所の営業担当)



中井さん(港支所で此花区大正区の担当)

〈第2期第2陣〉8月27日～9月2日

支所職員など7名(内ならコープの方1名)

井川さん(平野支所の平野区担当)、西村さん(サービス事業部)、世良さん(住宅サービス)、稲熊さん、遠山さん、水守さん、岩井さん



岩井さん(福祉事業部 遠山さん)



水守さん(店舗商品部水産担当)

パルコープから送られてきた湯のみ、お皿と、倉庫にある調味料などの物資を仕分けし詰め合わせました。中腰の作業で少し腰にきて、大量に汗をかきました。8月30日作成の95箱で、送られてきたものは完了しました。

地域に戻って 家を建てて 元の生活に戻りたい



カフェ隊

仮設住宅でまだまだ不備なところが沢山あると思いました。陸前高田市では洗たく物を干す場所、タオルをかける場所、脱衣所もなく、不便な生活を送られていると感じました。これから冬に向かうので寒さも不安だと思えます。(港支所で此花区大正区の担当)

大穂町のカフェ隊に参加しました。ボランティアが話しかけたりせずに、住民の方同士で毛糸でシユシユを作りながら会話されています。女性が多く参加されていて、男性の住民の方も気軽に参加できるイベントがあればと思います。(店舗商品部水産担当)